

令和7年度学校評価自己評価表 学校名: 廿日市市立原小学校

学校教育目標	夢と希望と輝きをもつ 児童の育成	[ミッション] ふるさと原を誇りに思い、生き生きと輝いて 21 世紀の社会に貢献できるよ う、自分で考え自分で行動する子どもを育てる。
		[ビジョン] ・自由で主体的な学校 ・風通しのよい職場 ・地域を大事にする学校
経営目標に向かう ストーリー	☆七尾中学校区、本校の研究テーマに共通している「自分の考えを持ち、説明する力の育成」に基づき、表現力の向上を目指した授業づくりを行う。 ☆行事等を通して地域の方々に親しみ、日頃のあいさつや会話等を通して感謝の気持ちを持つことにより、地域貢献への意識を涵養する。	

評価計画				昨 年 度 末	目 標 値	第 2 回 中 間	第 3 回 最 終	達 成 度	評 価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための 方策	評価指標						
①【学習指導】 主体的、意欲的に学 ぶ児童を育成し、確 かな学力を身につけ る	◎学校全体で授 業交流の活性化 を図り、教師の 授業力を向上さ せる	・視点を明確にした研 究授業に各担任が年 一回以上取り組む。 ・ロイロノート、グー グルワークスペース等の 活用例について暮会 等で交流する。 ・1学期と2学期に1単 元以上の「個別最適な 学び」を視点とした授 業に取り組む。	・課題の解決に向けて、自分で考 え、自分から取り組む児童の育 成【市共通項目】市目標値 85% 《児童アンケート》 困ったことや難しいことの解決に向けて自分 で考え自分から取り組んでいる。 ※全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的評価 からの数値と本校児童評価アンケートから	87.5% (全国学力) 87% (本校アンケート)	85% (全国学力) 85% (本校アンケート)	95% (全国学力) 83.3% (本校アンケート)	95% (全国学力) 87.9% (本校アンケート)	108% (全国学力) 103% (本校アンケート)	A
			・自分は理由を付けて相手に分か りやすく話している。 児童評価	83.6 %	85%	83.3 %	89.4 %	105%	A
			・標準学力調査ステップ別人数比 における達成率(ステップ3・ 4・5の割合)国語・算数	国語 70% 算数 79%	国語 85% 算数 85%	国語 1% 算数 1%	国語 82% 算数 93%	国語 96% 算数 109%	A B
(修正)									
②【生徒指導】 自分を大切に、友 達を大切に、共に 頑張ろうとする心と 根気強く取り組む力 を育成する	・望ましい生活習 慣の定着を図る ◎児童の自己有 用感を高める 【校区共通項目】	・生活ふり返り週間の 取組を継続し、日々 の生活習慣について、目 的意識をもたせ、個に 応じた具体的な方法 を指導する。 ・自他の良さを互いに 認め合える活動の場 づくりと評価の工夫を 行う (「かがやきの木」の全 校への紹介・縦割り 班掃除等の取組)	・「相手の方を見て挨拶をする」児 童評価(生活振り返りカード④)	93%	90%	95.4%	92.4%	102%	A
			・「わが子は、家庭・地域・学校など の場で挨拶をしている」 保護者評価	81%	80%	77.3%	67%	83%	B
			・自分は、自分のよさは、周りの人 から認められていると思う。 児童評価	79%	90%	81.8%	87.9%	97%	B
			・自分は、まわりの人の役に立 とうとしている。 児童評価	1%	90%	93.8%	83.3%	92.6%	B
(修正)									
③【開かれた学校】 地域・保護者との連 携を深め、信頼され る学校づくりを進め る 学校における働き方 改革を推進し働きや すい職場を目指す	◎学校運営協議 会内での連携を 核として、児童 と地域とのつな がり深まる教育 活動を推進す る ・学校からの積極 的な情報発信を 行い、児童に関 わる課題を保護 者と共有し課題 解決に努める ・学校全体で業務 改善を推進し教 職員が主体的に 課題を解決する 組織風土を醸成 する。	・地域と学校の協働に よって、児童の資質・能 力・態度を育成する ・児童の学習面や生徒 指導上の課題に対し て、迅速に対応する ・業務改善を行い児童 と関わる時間や教材 研究の時間を確保す る	・「地域の人材とのつながりを広 げたり、深めたりできた」 教師評価	100% (教師)	100% (教師)	77% (教師)	92.4% (教師)	92.4% (教師)	B
			・「自分は地域(原)が好きであり 地域に役立ちたいと思っ ている」 児童評価	93% (児童)	90% (児童)	87.9% (児童)	92.5% (児童)	102% (児童)	A
			・「学校は我が子の相談に丁寧 に応じてくれる」 保護者評価	100%	100%	100%	93%	93%	B
			・「児童の課題に対し迅速に対 応し、教職員間で連携して取り組 んだ」 教師評価	100%	100%	100%	100%	100%	A
			・「仕事に意義とやりがいを感じ 主体的に児童と関わったり教材 研究に取り組んだりした」 教師評価	100%	100%	100%	100%	100%	A
(修正)									

中間期 結果と課題の分析・改善方法等

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」(児童評価)(目標値85%)昨年度末の87%から83.3%と児童の自己評価はまだ目標値に達していない。また、「自分は理由を付けて相手に分かりやすく話している」(児童評価)(目標値85%)昨年度末の83.6%から83.3%とこちらも達成していない。両方とも下回っているが、今年度は研究の柱として「分かる楽しさ」を取り入れ、誰でも学びに参加でき、自分で課題を選択し、決定し、取り組むことのできる授業づくりを全体で行っている。
- また、今年度よりチーム担任制を取り入れ、多くの先生との関わりを通し、新たな視点から児童のよさを認めたり、伝え合う場や説明する場なども取り入れたりしている。
- 授業づくりにおいても、自由進度的な学習や自分で課題を選択し、決定した上で取り組む場などを設けている。2項目とも教師評価では100%に達しているのは、その取組を行っているからである。教師と児童の認識の差を埋めるために、以下の事を後期は重点的に行っていきたい。



【具体的な指針の共有】

評価の低かった児童においては、アンケート項目の理解として、「理由をつけて」や「分かりやすく」というところの認識ができていないことが考えられる。目標達成への自己評価が低いのも同様であり、できていても肯定的な評価につながらないのは、何ができたらいいいのかなどの具体的な姿が児童に伝わっていないからである。指針を共有しつつ、教師がその場面を見つけた際、認める声掛けが必要である。例えば、「分かりやすく」とは順番、図示、指差しをしながら説明することであること、また、説明したいと思える環境づくりとして聞き手の反応など話型を示し、掲示し、いつでも使えるようにしていく。

【説明場面の設定】

授業だけではなく、委員会活動を兼ねて、放送委員会のインタビューを全児童で行い、その場でのやり取りから説明できる児童や質問できる児童を育成する。

- 「相手の方を見て挨拶をする」(児童評価)(目標値90%)昨年度末の93%から95.4%と児童の自己評価は上昇しているが、「わが子は、家庭・地域・学校などの場で挨拶をしている」保護者評価は81%から77.3%と下降している。児童の自己評価と保護者の評価には大きなギャップがある。
- 児童は、学校内においては挨拶シールの取組もあり、「自分は挨拶をがんばっている」と思っているが、それが学校外の場に広がっていないと捉えられる。そこで以下の事を後期は重点的に行っていきたい。



【家庭内での挨拶の呼びかけ】

まずは「家庭内での挨拶をしよう」と呼びかけたい。①おはよう②行ってきます③ただいま④おやすみなさいの4つの挨拶をしようという取組を進めたい。

- 「自分のよさは、周りの人から認められていると思う。」(児童評価)目標値90%に対して、81.8%であった。本校では、自分以外の人の良さを見つけたり、自分では気づかない自分の良さを認めてもらったりできる機会を作るための「かがやきの木」の取組をしている。この取組は、自分の良さを認められていると感じられることにつながるものである。



【かがやきの木の取組の工夫】

金曜日の朝の「かがやきの木タイム」で、すべての児童がカードをもらえるようにする工夫を進める。例：週の初めに書く相手を決めておき、金曜日に書くなど。また、「先生からほめられる」という回数を増やしていくことも大切であると考え。叱るときはしっかりと叱るが、たくさんほめることを私たち教職員が意識していく。

- 「自分は周りの人の役に立とうとしている」(児童評価)93.8%と目標値の90%を上回っている。



【特別活動の充実】

引き続き、委員会活動、係活動のさらなる充実を図り、「みんなのために責任をもってがんばろう」という意欲を持たせていきたい。

- 8月の熟議では、教職員と学校運営協議会・地域学校共同本部の皆様と地域のよさを生かした学習活動について深く話し合うことができ、今後の学習活動に大いに役立つ意見や知識を得ることができた。地域・保護者と連携した学習として、米作りやサツマイモ栽培、鼓笛隊活動等の伝統的な学習活動とともに、「ハラっばマルシェ出店」等の地域行事参加、高齢者施設との交流、植栽活動なども昨年より継続し、活動内容も充実化している。
- しかし、「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」の教職員アンケート結果(77%)から、教職員は地域との連携をさらに進めていく必要性を感じていることが分かった。また、地域への貢献的な活動に対し、「自分は地域(原)が好きであり地域に役立ちたいと思っている」という児童アンケート結果(87.9%)から、原地区外から登校している児童への働きかけに課題があることが分かった。



【やりがいや達成感を感じる取組の充実】

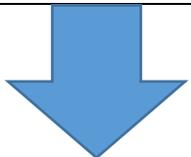
これからも地域の方々との連携を深め、地域のよさを生かした特色ある学習活動と地域貢献にやりがいや達成感を感じられる取組の創造に励んでいきたい。

- 学校教育目標に向かって教職員のやりたいことを支援し、働き方改革を進めている。
- 教職員の「やりがい」を高める取組は、アンケート結果(100%)。教職員個々の強みを生かし、チャレンジを支えること、課題に対してチームとして積極的に力になろうとすることのできる心理的安全性の高い教職員同士の関係ができている。



【達成感のある業務改善の推進】

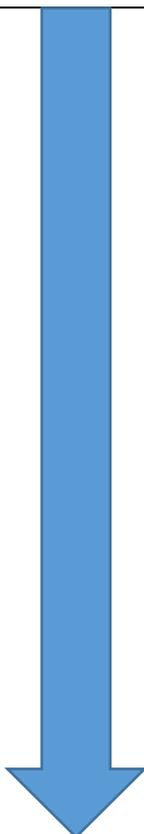
教職員の超過勤務は、4月～8月の月45時間超過は16名。新学級スタート直後の5月に実施した運動会の影響が大きかったと思われる。行事に関わる業務の精選、行事を見越した業務の効率化について改善を図っている。「紙面カエル会議」として、全教職員からアイデアを募集して業務の効率化を図り、すでに10項目実現させている。今後さらに取組を続け、教職員全員が達成感を味わえるようにしていきたい。



- ・基礎学力向上をしっかりとお願いしたい。中学校では帯タイムで学力保障の取組をしている。小学校でも学力の二極化を起こさないように取り組んでほしい。
- ・学校の雰囲気や和やかでよい。授業も和やかな中で集中すべきところはきちんとできている。高学年になればより一層できているように感じた。
- ・特に高学年は成長を感じた。新学期になり、あいさつ運動があるからと言って早くから登校し、正門に立っている高学年を見て、先生方、地域の方々のおかげで子ども達が成長していると感じている。
- ・あいさつについては、子ども達はしっかりやったと思っている。最近、目を見てしっかりあいさつができていると感じる。自分からあいさつをし、こちらがしたらきちんとあいさつが返ってくる。ずいぶんよくなっている。
- ・地域の人材とのつながりについての教職員のアンケート評価から思いを知ることができたのは嬉しかった。地域として、原小学校の先生方とより仲良くしていきたい。
- ・保護者の「学校が丁寧に対応してくれる」という信頼を得ているので、引き続き頑張してほしい。
- ・教職員はやりがいを感じて働いている。働きやすい職場になっていると思う。

結果と課題の分析・改善方法等

<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上については、帯タイムを復活させ、①基礎的な計算力②漢字の学習③聞き取る力の育成を行う。3分間の中で、個々のつまづきを把握し、確実に身に付くように繰り返し練習する。教職員及び児童で目標を共有し、「達成カード」に記録しながら児童の意欲を継続できるようにしていきたい。 	<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、運営委員会の「あいさつ運動」をしばらく継続し、少しずつ参加者が広がっていくような取組につなげていきたい。 	<p>【修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加として、3・4年生は「ハラっぱマルシェ」への出店と合唱発表を行う。また、低学年は、「まちたんけん」で地域に出向き、地域の方との交流、つながりも生まれる。「チーム担任制」を生かして地域との連携ができる教員が新しく着任した教員に地域の方々との橋渡しがスムーズにできるようにしていく。また、教職員が熟議で得た意見をもとに、伝統芸能についての学習活動など、新たな地域学習の創造にも教職員が計画・実施できるように時間を確保していく。
---	---	--



最終 結果と課題の分析・改善方法等

【表現, 伝える活動】

○「理由をつけて考えを表現することができている」の児童評価は、89.4%で、目標値を達成した。中間期からも6.1%伸びている。これは「相手」を意識した発表や説明ができたことに繋がる。

○今年度は学習目標として「聞く力」に重点を置き、月ごとに変えるのではなく、学期ごとに目標を設定した。学校全体で振り返りを行い、学級だけでなく朝会でも価値づけを行い、それにより、聞き手が育ち、発表者の意欲や「もっと分かりやすく伝えたい。」という思いにつながった成果であると言える。

○自分の考えや思いに自信がなかったりどのように言えば良いか分からなかったりした時にはペアやグループで相談できる学びのスタイルや、教師が「どうしてそう思ったの？」と積極的に聞き返すことや図や表等根拠となるものを指さしながら説明する授業の流れを積極的に取り入れたことも成果の1つである。

【基礎学力の定着】

○基礎学力の定着については、今年度の研究主題である「学びが楽しい」を教職員が意識し、全員が学びに向かうことができるための具体的な支援について協議し、一年間取り組むことができた。

○また、学力の二極化を防ぐために、学習において児童の苦手とするところを見取ったり、特別支援の視点(焦点化・視覚化・共有化・具体化)を取り入れたりして授業を改善・向上させてきたことにより、標準学力調査ステップ別人数比においての達成率が、国語科で昨年度70%が82%、算数科が昨年度79%が93%と向上した。

○帯タイムについての時間は来年度に持ち越すことになるが、その授業ごとに必ず分かって次に向かえるように、各担任だけでなくチーム担任制を生かして協議しながら取り組むことができた。

○特別支援の視点を取り入れた授業づくりについては、今年度の取組の反省を生かして、児童の見取りをより深めて児童一人一人が自分に合った学習法を身につけていけるように改善していく。

【あいさつ】

○わが子は、相手に伝わるように挨拶をしている」保護者評価は目標値80%に対して、67%であり、達成度が83%という低い結果となった。

○1学期の「あいさつ名人カード」、2学期の「あいさつの木」、2学期途中からの運営委員会児童による「朝のあいさつ運動」という取組をおこなった結果、「相手の方を見て挨拶をしている」児童の自己評価が92%(目標達成度102%)と高くなっているが、保護者の評価は低い。家庭での挨拶「おはよう、行ってきます、ただいま(おかえり)、おやすみなさい」をしようという呼びかけも不十分であったと捉える。

○来年度も引き続き、生活の基本である「あいさつ」についての取組を推進していく必要がある。

【自己有用感の向上】

○「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」児童評価は、昨年度末の79%から88%と上昇。本校が数年来実施してきた「かがやきの木」の取組において、各学級での取組を充実させたことと、金曜日の朝の時間に「かがやきの木タイム」を設定したことから、カードを書く時間が確保されたことから、カードをもらう児童数が増えたことが要因として考えられる。

○また、12月から2月初旬にかけて実施した運営委員会児童による「かがやきの木」紹介放送も児童の自己有用感の上昇に影響しているのではないかと考えられる。「かがやきの木」の取組は児童に定着しており、保護者や地域の方にも浸透しているので、今後も「マンネリ化」に陥ることなく工夫しながら続けていきたい。

○「自分は、まわりの人の役に立とうとしている」児童評価は、83%(目標達成度92.6%)であり上記の項目と比較すると低い値となっている。児童の日々の生活を見ていると、縦割り班そうじや係、委員会活動などで積極的に自分の役割を果たそうと行動している姿はとて多く見られる。

○自分たちの行動のどんなところがまわりの人に役立っているかをつかんでいないのではないかと考えられる。

○そこで、アンケート記入に際して、児童に具体的な場面を想定させる補足説明を行うように改善を図る。その結果(来年度)を踏まえて、今後の取組に活かしていきたい。

【地域の人材とのつながり】

○米作りやサツマイモ栽培、鼓笛隊活動等の伝統的な学習活動、「ハラっぱマルシェ出店」等の地域行事参加、高齢者施設との交流、植栽活動なども昨年の反省に基づく改善によって、活動内容が充実化した。

○しかし、「地域の人材とのつながりを広げたり、深めたりできた」の教職員アンケート結果(92.4%)より、教職員の地域の関係を深める機会を増やすことが必要だと考える。来年度は、地域と学校の協働的な学習活動をつくることをめざし、地域の人材との話し合いの機会を増やしていく。

【地域貢献への意欲】

○地域への貢献的な活動に対し、「自分は地域(原)が好きであり地域に役立ちたいと思っている」という児童アンケート結果(92.5%)から、原地区外から登校をしている児童への地域貢献に対する意欲や喜びが感じられる活動の工夫の成果が出てきていることが分かった。

○来年度も地域の方々との連携を深め、地域のよさを生かした特色ある学習活動と地域貢献の取組にやりがいや達成感を感じられる取組の創造に励んでいきたい。

【教職員の「やりがい」を高める取組】

○教職員の「やりがい」を高める取組は、アンケート結果(100%)であった。

○教職員個々の強みを生かしてチャレンジを支え、課題に対して積極的に協力することのできる心理的安全性の高い教職員同士の関係が、チーム担任制のスムーズなスタートに結びついた。

【チーム担任制】

○チーム担任制についての児童アンケート(92.1%)から、児童が肯定的であることが伺える。教職員も、複数での計画・準備が可能となり、活動の幅を広げることができている。来年度以降の取組の広がり、深まりへ結び付けたい。

【社会に開かれた学校】

○学校からは、個人情報保護に留意しながら、学校だより、学校HPを活用して情報発信を行っている(HPは2週に1度のペースで更新)。

○来年度より、小規模特認校指定を見据えて市内の保育園、幼稚園への入学勧誘を行っていくこととなる。

○園児の体験入学等を含めた入学勧誘への取組に伴う情報発信への構想と準備を進めている。

【業務改善】

○教職員の超過勤務については、9月～1月の月45時間超過は3名。学習発表会開催月の10月以外は、勤務時間の平均は20時間台と、改善が見られた。

○「紙面カエル会議」として、全教職員からアイデアを募集して業務の効率化を図り、9月以降、来年度実施を含めて5項目実現させた。今後さらに取組を続け、教職員全員が達成感を味わえるようにしていきたい。

- ・年度初よりどの学年も成長を感じた。どの学年も集中して学習できていて感心した。居住地交流(2年生)も、継続して交流できるとよいと思う。
- ・学校評価については、課題を明確にして取り組んでいて、成果が出ているように思う。引き続き教職員が協力してやってほしい。
- ・教職員の授業中の表情がよい。児童も安心して取り組んでいた。タブレットを使って自己選択・自己決定して学習を進めている姿が見られた学年がある反面、今日は教師主導の授業形態で、その姿が見られなかった学年もあった。日頃から取り組んでいると思うので、ぜひこの取組をこれからも進めていただきたい。
- ・学んだことをアウトプットする活動もされていると思う。それによって表現に対する児童評価が高くなっているのだと思う。
- ・来年度もチーム担任制を継続し、しっかり取り組んでほしい。
- ・原小学校は、地域交流など学びの多いよい学校だと思う。授業では、ICTを活用して視覚化を進め、たいへん分かりやすい。どの学年の授業も大変よかった。
- ・個別の活動について、個人的な確認を教員ができていることが大変よかった。少人数の学校だからこそその価値ある学習のスタイルができていた。
- ・保育園交流では、児童に主体的に活動する力がついてきていることが分かった。よい交流ができている。

学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策

<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進計画に自己選択・自己決定して学習を進めていく指標をより明確にし、児童の力の育成をめざす。 ・情報リテラシーを意識させながらICT機器を日常的に活用するようしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会がおこなった「朝のあいさつ運動」は、児童が「自分から地域の方に挨拶をしようとする意欲と態度を養う機会となった。ほかの児童からも「参加したい」という声が聞かれるようになってきた。この取組を全校に広げていくことも考えていきたい。 ・「かがやきの木タイム」は、次年度も引き続きおこなっていくことで、カードを書く時間として児童の生活の中に位置づけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム担任制については、今年度の形を引き継いで、来年度も実施。 ・チーム担任制スタートの年度当初より、目標達成の3学期のまとめをめざした計画作成を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自己選択・自己決定して学習を進める力を伸ばす取組を推進していく。 ・学んだことをアウトプットする取組を授業に反映させる。 ・来年度のチーム担任制については、チームで取組を進める長所を生かして3学期のまとめを意識した計画を立てるようにする。 ・小規模特認校指定を見据えて地域・幼保小連携など進め、特色ある学校づくりを地域とともに進めていく ・引き続き、教職員がやりがいを感じながら学校目標の達成に向けて連携していけるよう、取組を継続していきたい。 		

